令和5年度　大田区立蒲田小学校　自己評価　報告書

令和6年2月17日

○　本校の概要

大田区立蒲田小学校は、羽田空港に近く、多くの外国籍の方々も暮らす町として国際化の進む地域にあり、令和5年度は、通常学級18学級、特別支援学級(固定)3学級、日本語学級(通級)2学級を併設している。開校144周年を迎えた伝統のある学校として、地域の方々に支えられ、保護者も学校に協力的である。
また、平成15年度から、東京都教育委員会指定の人権尊重教育推進校として取り組んでおり、校内研究において各教科と人権課題、日常的な指導から人重教育を推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	児童アンケートで「学校やクラスのために良いと思うことは、協力して行っている」に肯定的に回答した割合	4:85%以上	4	・児童アンケート（回答数481名）の結果は89．8%であった。肯定的評価の中でもA評価は49．6%であり、昨年度よりも10．6ポイント向上した。今年度は学級活動を中心により良い集団作りに取り組んだことで、児童が自ら貢献していることを実感していることの現れであると捉える。 ・「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施した教員は59．2%であった。令和7年度の大田区の独自教科新設に向けて、その趣旨を共有するとともに、年間指導計画を作成し、余裕をもって対応できるようにする。 ・Chromebookに月に10日以上ログインし活用した教員は77．7%であった。日々の授業でChromebookを情報の検索や整理、交換のためのツールとして積極的に活用した。学年や教科に合わせて、今後も活用場面や方法を工夫して指導に取り入れていく。 ・人権教育資料等を活用した授業を実施した教員は88．8%であった。校内で研修を行い、人権教育はどの教科の授業でも行える力を全教員に養っていく。	A	9	・校長先生、副校長始め教職員の取組にいつも感謝しております。 ・すべての大項目において、前年の評価割合と比較してアップしていると感じました。日頃の先生方の努力の成果の表れと思います。地域住民の1人として感謝します。引き続きこのような努力の継続をお願いします。 ・人権教育という難しいことに深く取り組んでくださっている様子がうかがえて良いと感じます。 ・人権教育はネット文化が盛んになり、対面して話したり、気持ちをぶつける事が減っている今だからこそ、とても大切に感じます。上の学年に上がりネットに触れる頃合いで、ネットリテラシーとともに全児童を対象に実施できると良いのではないでしょうか。 ・ICT機器の導入、活用で、日々の授業や児童・保護者対応に追われる教員の方々の負担軽減に少しでもつながればよいと感じます。 ・取組評価と成果評価が合致していない。成果評価は「3」と示すのが正しい評価と判断します。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1		3:80%以上			B	3	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	3							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3		2:75%以上			C	1	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		1:75%未満			D	0	
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	1	児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」に肯定的に回答した割合	4:85%以上	4	・児童アンケート（回答数481名）の結果は87．7%であり、昨年度より0．6ポイント低下した。一方、保護者アンケート（回答数154名）「子供たちにとって分かりやすい授業をしていた」のA評価は76．2%であり、昨年度より12．3ポイント向上した。学校では児童の学習状況を把握し、児童に合った指導をさらに工夫していく。 ・今年度は大田区で学習カルテを作成しておらず、学習状況をもとに児童との面談を3年生以上の全学級で行った。 ・授業改善推進プランを授業に生かした教員は85．1%であった。全校で児童の学習上の課題を共有し、授業改善推進プランの活用方法についての校内研修を行うことで、全教員による改善授業の実施を進める。	A	8	・常に児童に対して教職員が一体となって熱心に取り組んでおります。 ・個々の理解度や習熟度に合わせた授業を行うのは大変だと思いますが、小学生でのつまずきは今後に大きく響くため、学習状況に合わせた指導を行うのはとても有効だと感じます。 ・最初の学習のつまずきにいち早く気付いてくださる先生がたくさん育ってくださる事を願います。 ・こちらも取組評価と成果評価が合致していない。この内容であれば成果評価は「3」となる。なんでも4を並べる意識が校内に存在するような心理がありそうです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3		3:80%以上			B	4	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4		2:75%以上			C	1	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3		1:75%未満			D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	児童アンケートで「先生は、自分のことをよく見てほめたり、注意したりしてくれる」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	4	・児童アンケート（回答数481名）の結果は91．3%であり、昨年度よりもA評価が3．8ポイント増えた。教員が児童の様子をよく観察し、「ほめる」「しかる」「励ます」等の声掛けを適時適切に行ったことで、児童の満足感や安心感が高まったと考える。今後も丁寧に一人一人と接していく。 ・学校生活調査の結果を活用してストレス症状の見られる児童に対して全教員で組織的に対応した。年2回の「こどもの心サポート月間」に学校生活調査やスクールカウンセラー等による面接を行い、児童の心に寄り添う指導に努めている。 ・いじめへの組織的な取組をしている教員は96．4%であった。いじめの未然防止のための学級指導や早期発見に努め、いじめが発見された場合にはいじめ防止対策委員会を開いて対応について検討し全校で共有して対応した。教員への研修を強化することで、全教員が対応できるようにしていく。	A	13	・児童達に常に教職員が寄り添って指導している姿に感謝しています。 ・いじめという悲しい事が先生方の努力により初歩的な時点で見付けてくださる事を願います。 ・一人で40名近い児童を気に掛ける先生方には日々感心します。様々な特性をもった児童も多い中、それぞれの児童の状況を把握し、時に家庭とも連携をしながら児童をサポートすることで、子供達が心身共に健やかに成長していくことを願っています。 ・児童の心の成長に正面から対応していると思います。これからも細かなところまで会話をして取り組んでください。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3:85%以上			B	0	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:80%以上			C	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4		1:80%未満			D	0	
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	児童アンケートで「自分からすすんで運動をして、健康的な生活をしている」に肯定的に回答した割合	4:85%以上	4	・児童アンケート（回答数481名）の結果は85．0%であり、昨年度より4．1ポイント上昇した。保護者アンケート（回答数154名）「子供たちは積極的に運動したり、健康的な生活をしたりしようとしている」の肯定的な評価は97．4%であり、昨年度より12．4ポイント上昇した。校舎の増築工事が終わり、新型コロナウイルス感染症も落ち着いたことで運動する環境が整い、児童は校庭で思いっきり体を動せるようになった。 ・児童の運動習慣の確立について働きかけを行った教員は96．2%であった。学校では、年間を通しての体力アップタイムや、運動量が落ちる冬場に短縄習慣を実施する等、児童の運動する機会を計画的に設けている。今後も内容を工夫しながら、児童の運動量の確保に努めていく。	A	9	・健康に関して心配りをしっかりしている姿が常に見受けられます。 ・コロナも落ち着いてきた事で、児童館でも今年度の1年生は特に体を動かす事を好む児童が多いように感じます。日々の学校生活の中で、体育をはじめ、体を動かす時間があることで運動へ積極的に向かう姿が見られます。 ・コロナの中、大切な小学校生活が満足に活動できなかった児童達を、今後フォローする大切な時期が来ている気がし、先生のご苦労を感じます。 ・児童数481名に対して保護者アンケートの回答数が154は低すぎると思います。概ね3割程度が回答して、7割は回答していない結果でしょうか。学校と家庭の連携を密に運営してください。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		3:80%以上			B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		2:75%以上			C	0	
						1:75%未満			D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケートで「教職員は、子供たち一人一人に熱意をもって教育に当たっている」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	4	・保護者アンケート（回答数154名）の結果は99．7%であった。教員は、学校生活や子供のことについて、保護者会や個人面談だけではなく、随時相談に応じるようにしている。今後も児童理解に努め、熱意をもって指導に当たっていく。 ・授業公開日の授業評価を全教員で共有し、課題について改善策を立て授業改善に取り組んだ。 ・各種研究発表会等の研究の成果を授業改善に生かした教員は92．5%であった。他校の優れた教育実践を校内で活用するため、各種研究発表会に教員を派遣し、内容を伝達する研修を年間12回行った。 ・特別な支援が必要な児童の指導について検討する校内委員会を特別支援教育コーディネーターの教員が主催した。障害の特性や指導方法について教員で共有し、指導に当たった。	A	13	・教職員の皆さんは子供達の安全・安心のために頑張っております。 ・当校の先生方はとても熱心に取り組んでいてくださる感じが致します。 ・保護者アンケートで99.7%というのは非常に高い結果だと思います。日々の先生方の苦労や情熱が伝わっているからこその結果だと思います。ただ、若干児童数に対して保護者の回答が少ないのが気になります。 ・児童に寄り添った熱意ある教育を今後ともお願いします。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3:85%以上			B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:80%以上			C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		1:80%未満			D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	4	・保護者アンケート（回答数154名）の結果は97．4%であった。ホームページを毎月5回程度更新し、学校だよりや児童の活動の様子を伝えるとともに、学年、学級ごとの情報は学びポケットの保護者連絡機能を活用して情報発信を行った。 ・地域教育連絡協議会を年3回実施するとともに、各種行事や学校公開等に地域教育連絡協議会外部委員を招いて、学校の取組や児童の様子をご覧いただいた。児童アンケートや保護者アンケートの結果をデータとして示し、ご意見や学校の評価について判断していただく。 ・学校支援地域本部の協力を得て、教育活動を充実させている。朝遊び、読み聞かせ、家庭科授業補助、夏のわくわくスクール等、多くのサポートを提供していただいている。	A	13	・地域として学校からのSOSがあった時など児童の安全・安心のためなら、お手伝いできる事があった時は、地域として惜しげなく協力させていただくつもりでおります。 ・地域で学校を支えていけるように、更に努力したいと思います。 ・子供を真ん中に置いた相互連携が取れていると思います。 ・ホームページでの学校だよりの閲覧やまなびポケットを通じての出欠連絡は今の保護者のニーズにも合っていると思うし、通勤時等にも確認できるのは保護者にとっても助かると思います。 ・地域教育連絡協議会だけでなく、運動会や学校公開に顔を出した事で、学校での子供達の様子を知る事ができました。 ・地域との協力体制はもっと活発に行って良いと思うし、活発な動きを進ませるべきと思います。大田区では地域との連携を示しているので、より一層の地域力のある学校運営に向かってほしい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3:85%以上			B	0	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		2:80%以上			C	0	
						1:80%未満			D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。